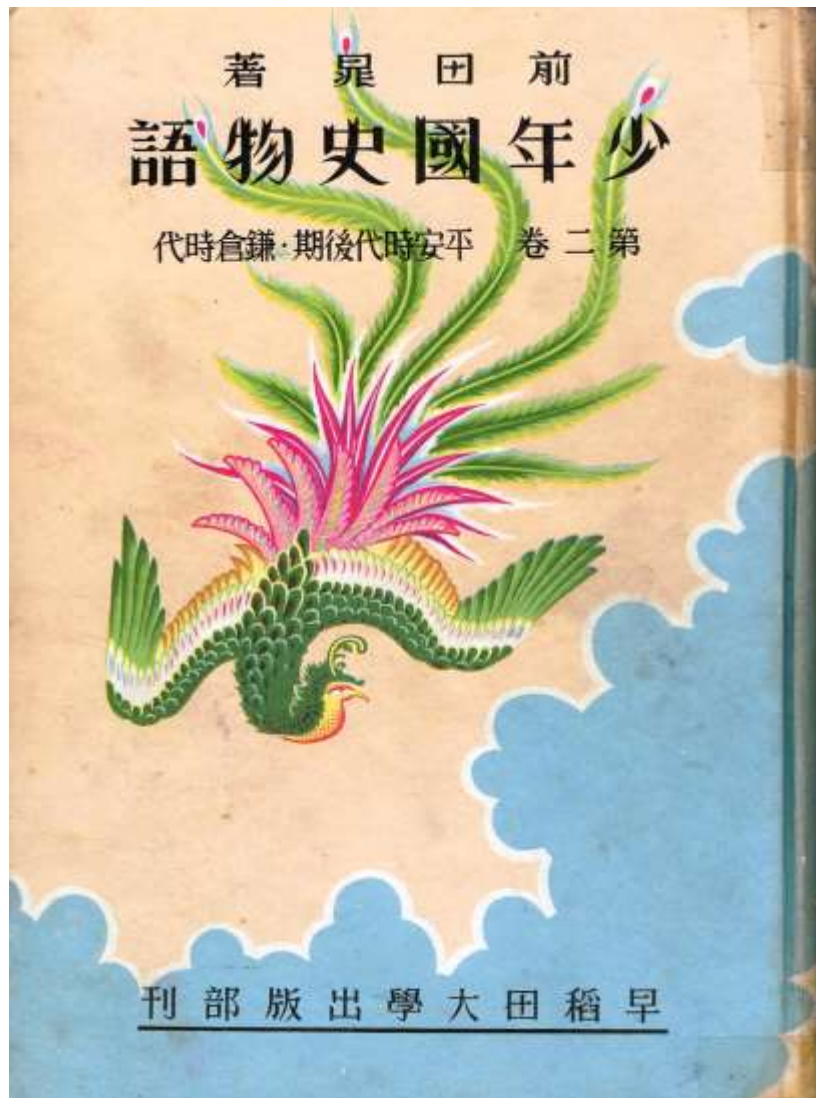


少年少女のための 日本の歴史物語 第二巻

原著 少年國史物語 第二巻 平安時代後期、鎌倉時代

前田晁 著 A4 版 318 頁+付録

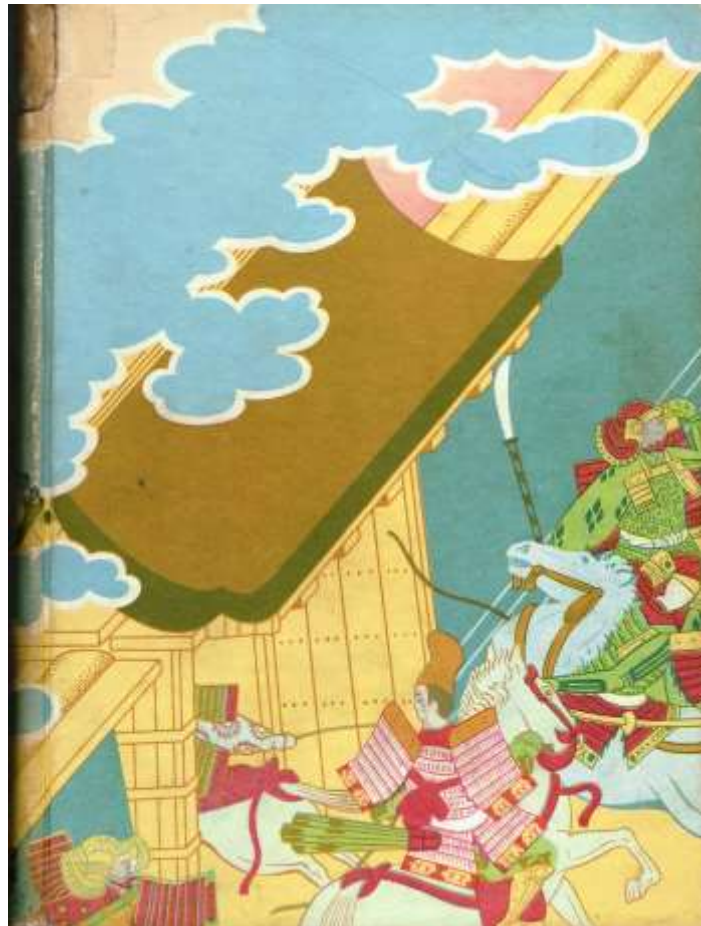
昭和 12 年 早稲田大学出版部発行、 1 円 20 銭



原本の表紙



待賢門の戦い（平治の乱）



原本の裏表紙

第二巻 目次

	頁数
第1話 <small>ご えいまい</small> 後三條天皇の英邁	4
<small>ひさ ちょうてい せいじ ころろ ふじわら えいまい ご じょう しんせい とみ</small> 久しく朝廷の政治を心のままにしていた藤原氏も、英邁な後三條天皇の親政で頼に <small>せいりよく うしな しらかわほうおう いんせい はじ せっしょうかんぱく まった</small> 勢力を失う。 ついで白河法皇が院政を始めになってからは、藤原氏の摂政関白は全く <small>めいぎ やくめ</small> 名義ばかりの役目となった。	
第2話 <small>げんじ ぼっこう</small> 源氏の勃興	3
<small>まま あら おこ すで</small> けれども、藤原氏がわが儘な政治をしている間に、新たに地方に興った武士の力は、既に非 <small>げんじ さか</small> 常に強くなっていた。 とりわけ源氏の勢力は東国に盛んであった。	
第3話 <small>ぜん えき</small> 前九年の役	11
<small>あべ むつ</small> 安倍氏の乱が起こって、源氏の勢力は更に遠く陸奥に及ぶ。	
第4話 <small>ご えき</small> 後三年の役	8
<small>でわ きよはら うちわも おうう</small> 出羽の清原氏の内輪揉めが大きくなって奥羽地方が再び乱れる。 この乱でもまた源氏の <small>せいりよく の</small> 勢力が伸びる。	
第5話 <small>いんせい</small> 院政	3
<small>いんせい せんおう おさ</small> 院政が始まって藤原氏の専横は全く抑えられた。 今度は政治上の命令が主として院の御 <small>そうへい</small> 所から下って、朝廷の政治はまた乱れる。 この間に僧兵の勢いも盛んになる。	
第6話 <small>へいし しゅっせ</small> 平氏の出世	4
<small>まさかど ただつね むほんにん</small> 将門や忠常のような謀反人を出したために平氏は一時勢いを喪ったが、 院政時代になっ <small>ふる さか</small> て再び振り始める、 源氏の勢力が東国に盛んであったのに対して、平氏の勢力は主として西 国に伸びる。	
第7話 <small>ほうげん らん</small> 保元の乱	10
<small>から たたか らん す</small> 皇室の御争いに藤原氏の争いが絡んで、ひとつの戦いが起こる。 武士の力でその乱は直ぐ <small>しず</small> に鎮まったが、この為に、その後は武士の力が直接に政治と関係を持つようになる。	
第8話 <small>へいじ らん</small> 平治の乱	12
<small>あとしまつ げんじ まった やぶ</small> 保元の乱の後始末に無理があったために、間もなくまた戦いが起こる。 源氏が全く敗れ <small>いきお あさひ のぼ</small> て、平氏の勢いは朝日の昇るように盛んになる。	
第9話 <small>へいし ぜんせい</small> 平氏の全盛	6
<small>へいじ いくさ にぎ いた</small> 平治の軍に勝ったために、平氏は政権を握るには至ったが、強い武力を持っていたので、	

全盛時代の藤原氏よりもなお威勢いせいが盛ふんなくらいでした。従って、次第に暴威ぼういを振るうようになつた。

第 10 話 平重盛たいらのしげもり ちゅうこうの忠孝 4

その中であつて、独り平重盛ちゅうぎが朝廷に対する忠義いさを忘れず。常に父清盛を諫めて、大きなあやま過あやまちのないようにした。

第 11 話 平氏へいし ぼうぎやくの暴逆 5

賢人重盛けんじん こうが薨あくぎょうじた後は、清盛の悪行はなはがますます甚ひきだしくなる。ついに兵を率いて都に上り、関白以下の官職かんしよくをほしいままに動かしたり、法皇お こを押し込め奉たかくらつたりする。高倉天皇のお歎なげき。御讓位じょうい。

第 12 話 源三位げんさんみよりまさ頼政 9

清盛の無道むどうがあまりにも甚はなはだしくなつたために、これを憎む者が非常に多くなる。この機運きうん さつを察して、源頼政おひまさ もちひとおうが以仁王とうぼつ すずに平氏の討伐たちま いんぼう もをお勧めする。が、忽もち陰謀が漏れて失敗する。

第 13 話 福原ふくわらせんと遷都 2

反対党ぼつぱつの勃発にわかに驚いた清盛は、俄かに衷心不安ちゅうしんふあんを感じて、都を福原ふくほら うつに遷す。

第 14 話 源氏げんじ きよへいの挙兵 11

頼政もちは宇治の一戦に脆くも敗れて自殺れいししたが、以仁王の令旨を奉じて諸国の源氏が一斉に起こる。とりわけ鎌倉を根拠地とした頼朝の勢こんきよちいが最も振るう。清盛の焦燥しょうそう。遷都の中止せんと。

第 15 話 平氏へいし すいうんの衰運 2

焦燥しょうそう、憤怒ふんぬの中に清盛が俄かに薨うちじて、平家の威望にわ こうはいよいよ落ちる。

第 16 話 源氏げんじ ほつこくしんしゆつの北国進出 5

信濃しなのに起こつた義仲よしなかが破竹はちくの勢いきおいを以つて北陸道ほくりくどうを打ち従える。俱利伽羅谷くりからたにの戦い、平家の致命ちめいてきはいぼく的敗北。

第 17 話 平家へいけ みやこおの都落ち 2

義仲よしなかが北国から京都に迫ると、宗盛むねもりは安徳天皇あんとくを奉じて遠く九州はしに奔る。

第 18 話 源氏げんじ どうしうの同士討ち 12

平家が都を落ちて行つた後は、義仲のちが京都を守つていたが、田舎育ちよしなかで道理に暗かつた為いなか そだ どうり くらに、ついに無道な行いをする。で、頼朝よりともが義仲追討よしなかついとうの院宣いんぜんを賜り、弟の範頼たまわ、義経のりよりら

をしてこれを討たしめる。 宇治川の先陣、義仲の敗亡。

第 19 話 平氏の滅亡

11

平家は西国で再び勢いが盛んになって、摂津の福原まで引き返したが、その後、戦う毎に源氏に負けて、ついに長門の壇ノ浦で一家一門 悉く滅びる。

第 20 話 頼朝と義経の不和

7

敵の平家が亡ぶと、大功を建てた弟義経に対する兄頼朝の憎しみは俄かに露骨になって、ついに、義経をして転々遁げ隠れ歩いた末に、自殺しなければならなくなる。

第 21 話 武家政治の始

3

奥州の藤原氏も亡びて、日本六十余州はことごとく頼朝の威勢に靡き従うようになる。彼は征夷大將軍に任ぜられると、幕府を鎌倉に開いて、天下の政治を執った。所謂武家政治の始めで、朝廷のご威光はこれより次第に衰える。

第 22 話 源氏の滅亡

9

頼朝は政治家としては偉かったが、人を妬み疑う心が深く、功労のある弟や臣下らをむやみに殺した為に、自然と源氏の勢力を弱める事となって、源氏は僅かに三代で亡びた。